

# 道路せいそう

〒108-0023 東京都港区芝浦 4-17-4 日本ロードビル3階

TEL 03-6435-1664 FAX 03-6435-1665

e-mail [jimukyoku1@seisougijutsu.or.jp](mailto:jimukyoku1@seisougijutsu.or.jp)URL <http://www.seisougijutsu.or.jp/>

発行 一般社団法人日本道路清掃技術協会 (昭和41年設立 平成4年9月創刊)

## 令和7年度 第61回定時総会を開催



令和7年6月11日、東京ドームホテルにて第61回定時総会が開催され、協会各社の代表者が一堂に会しました。総会は亀田理事長の挨拶に始まり、令和6年度の事業報告、決算報告、令和7年度の事業計画案および収支予算案の審議・承認が行われました。

亀田理事長は、昨今の国際情勢の不安定さに触れ、「米国の関税政策やウクライナ・ガザ地区の問題など、世界の経済と政治が大きな転換期を迎えている」と述べました。過去には政治的要因により業務に大きな影響を受けたものの、協会の地道な活動により一定の回復を見せていること、しかし依然として課題が残っていることを強調しました。

また、人口減少による人手不足が深刻化する中、屋外作業という特性上、機械化が難しい業務においては特に影響が大きく、災害時の応援要請に応えられない事態も懸念されています。能登半島地震では、協会各社が延べ1,500人以上の作業員を派遣し、生活用水の配布など地域支援に尽力しました。

「平時から十分な人材を確保・育成することが、非常時の対応力につながる」とし、道路清掃予算の増額を通じて、国民の安心とインフラの維持に貢献していく姿勢を示しました。

総会では、各議事進行を亀田理事長が務め、事務局より令和6年度の事業報告を、企画・広報部会、技術部会、安全部会の各部長より活動報告が行われました。

また、事務局より令和6年度の決算報告があり、小嶋監事より「適正」との監査報告がなされ、承

認されました。続けて令和7年度の事業計画案及び収支予算書案が提示され、満場一致で承認されました。

総会の終盤には、田中会長より本総会に寄せたご挨拶があり、稲垣事務局長により代読されました。

「昨年元日に発災した能登半島地震から1年以上が経過した今もなお、復興の目処が立たない厳しい状況が続いています。今年は幸いにも大きな災害は発生していないものの、地球温暖化の影響により、6月にもかかわらず夏日が続いており、今後の台風シーズンには“スーパー台風”の襲来が懸念されています。

さらに、南海トラフ地震や富士山噴火なども危惧されていることから、未曾有の災害が発生すれば、散水車や災害対策車を輸送する人員の確保において、当協会会員各社以外には、適切なオペレーターを派遣できる体制が整っていないのが実情です。

各種諸問題を含め、災害時に必要な人材を確保するためにも、平時からの『道路清掃作業』の発注を維持し、当初発注金額の増額を図るなど、協会活動に寄与することができればと思っております。」と述べられました。

総会の最後には、稲垣事務局長より閉会の言葉が述べられ、令和7年度の定時総会は無事に幕を閉じました。

今後も協会として、地域社会の安全と安心に貢献できる体制づくりを進めてまいります。



東京ドームホテルからの景色

#### 【令和7年度協会活動計画】

- 国土交通大学校研修や関東地方整備局、中部地方整備局、東北地方整備局、北陸地方整備局との意見交換会の実施
- 国土交通省関係部局に要望書等の提出
- 関東地方整備局が開催する道路清掃WGにオブザーバ参加
- 道路清掃技術講習会（学科・実技）・安全講習会の実施
- 「道路清掃技術者」の検討
- 道路清掃作業に関する情報提供や広報を適宜発信する。

#### 【令和7年度実施予定】

令和7年 6月	： 第61回定時総会の実施	
8月	： 道路清掃技術講習会（学科）	（令和7年8月1日）
	： 「道路せいそう」73号の発行	（令和7年8月）
	： 第41回 安全研修会	（令和7年10月29日）
11月	： 国土交通大学校研修講師	（令和7年11月5～13日）
	： 各地方整備局との意見交換会	
	： 道路清掃技術講習会（実技）	（令和7年11月17日）
令和8年 1月	： 「道路せいそう」74号の発行	（令和8年1月）

## 国土交通本省への「道路清掃予算に関する陳情書」 (山本道路局長、沓掛技術審議官、橋本審議官に提出)

### 概要

国土交通省が発注する道路清掃作業は、平成22年の事業仕分け以降、それまでの発注金額に対して4分の1程度まで減額され、ほとんど清掃作業ができない状況となりました。道路は酷く汚れ、受注していた会社は経営難で廃業を余儀なくされた社もあったほどでした。現在でも平成22年以前に対して7割にも満たない額での発注がほとんどで、一旦汚れた道路は綺麗にならず、路側や中分には土砂が堆積し雑草が生え交通の障害にもなっています。特に地方部は酷く路面清掃が数十年も実施されていない箇所もあり、排水構造物の土砂体積は酷く、豪雨時に路面冠水の原因になっている箇所が多く見受けられます。

人件費が急増する状況において、前記のように国道の清掃作業量は非常に少なく、各社の経営は自治体や民間が発注する仕事を請負ながら人材確保に努めている状況です。

近年、多発する自然災害の対応では、国土交通省は災害派遣要員を会員各社に依頼されている中、能登半島地震においても、会員各社に要請があり、請負契約中の作業を中断・変更するなどの緊急対応を行い、災害対策用の機械を運転できる大型免許保有者を中心に、延べ1,500人以上の要員派遣を行い、被災地域の皆様へ生活支援活動を行いました。

以上の問題を解決するため、適正な道路維持を確保するための予算の確保と、災害派遣要請に対して速やかに派遣できる人員及び人材確保のため、通常の道路清掃予算の確保のため陳情書の提出を行いました。

### 陳情事項

#### 1. 適正な道路維持を確保するための道路清掃・付属物清掃への予算確保について

各地方整備局において路面清掃距離の実態調査を実施して頂き、路面清掃頻度の改善、見直しと道路排水施設における最低限の許容通水量を確保できるように、清掃頻度が上げられるだけの予算を確保して頂くこと。

労務単価上昇分及び土砂処分費の値上げ分は、当初予算に上乘せするなど、施工量の削減をしないようにして頂くこと。

#### 2. 災害時のための人材確保について

災害発生時に災害対策車両を運転する「災害支援業務」は清掃作業を行っている会社の受注が多いが、年間発注額が1,000万円程度であり、常時運転員の確保は難しく災害発生時には本業務の履行範囲で人員確保は実質不可能であり、受注している企業として他の業務（道路清掃工事等）があるからこそ、支援業務を受注できるのが実態であり、災害を経験し、現地においても臨機応変に対応できる「重機オペレータ」の確保はこれからの災害対応には必要不可欠ですので、重機オペレータの確保、新たな人材の募集・育成を実施するためにも、年間を通じて、道路清掃従事者が確保できるように、業務量の追加をして頂くこと。



山本巧道路局長



沓掛敏夫技術審議官



橋本雅道大臣官房審議官

## 令和7年度 道路清掃技術講習会(学科)を開催しました

道路清掃技術者の育成と知識の向上、そして継続的な技術伝承を目的として実施している本講習会は、前年度より名称を統一し、夏季に行う座学講習を「道路清掃技術講習会(学科)」、冬季に清掃車の実機を用いた講習を「道路清掃技術講習会(実技)」として開催することとなりました。

令和7年度の「道路清掃技術講習会(学科)」は、8月1日に台東区民会館にて開催され、国土交通省関東地方整備局の技術エキスパート(道路構造物管理部会・機械部会)を含む75名(うち技術エキスパート17名)の方々が受講されました。

講習会の開催に際して、亀田理事長より「参議院選挙への対応」「熱中症対策の重要性」「台風9号の接近に伴う災害派遣への備え」についての挨拶文が寄せられ、稲垣事務局長により代読されました。続いて、来賓としてご出席いただいた関東地方整備局の後閑浩幸道路情報管理官より、「災害対応への御礼や、建設業界における人材不足への対応」などを含めたご挨拶をいただきました。

本講習では、道路清掃の歴史やその必要性、道路構造に応じた清掃施工方法などの基礎知識をはじめ、関連法令や施工管理に関する事項について解説が行われました。さらに、維持管理費に占める道路清掃予算の実態、災害派遣時における人材確保の課題、熱中症対策など、現場に直結する幅広いテーマを取り上げ、実務に役立つ内容となりました。



後閑道路情報管理官



講習会の様子

## 「道路清掃技術者」認定試験を実施しました

当協会が認定する「道路清掃技術者」とは、道路清掃作業の目的や種類・効果をはじめ、関連法令、積算、施工計画、災害対応など、幅広い技術知識を習得・熟知し、それらの能力を現場で安全かつ効率的に発揮できる技術者を指します。

この認定は、「技術」と「能力」を客観的に評価する試験に合格した者に対して付与されるものであり、専門性と実務力を兼ね備えた人材の育成を目的としています。

本年度は、8月1日 台東区民会館にて認定試験を実施し、44名が受験。全員が合格となり、新たに当協会の認定技術者として登録されました。これにより、累計認定者数は166名となり、着実に技術者層の拡充が進んでいます。

今後も当協会では、道路清掃の安全性・効率性の向上と、災害時における即応力強化を目指し、技術者の育成と認定制度の充実に努めてまいります。



試験の様子

## KEIYOのサステナビリティ —100年企業を目指して— 株式会社京葉興業

廃棄物処理業は社会の動脈・静脈を循環させる社会インフラとして欠かせない事業であります。昨今では産業活動の多様化・高度化や、社会生活の成熟化など、環境問題が地球規模で広がりを見せています。廃棄物処理分野においても単に処理処分するだけでなく、循環型社会構築のためのリサイクル処理や環境負荷の低減等、処理システムの高度化ならびに付加価値等の構築に取り組んでいかなければなりません。



当社は1964年7月に環境保全事業を目的として設立し「快適な環境と自然との共生」をスローガンに、資源循環・適正処理の担い手としての自覚と責任を持ち、地球環境負荷の低減と循環型社会への貢献に努めて参りました。地域社会ならびに顧客から「任せて安心」と信頼され、必要とされる「100年企業」を目指しております。

### 道路維持管理業務の一部

#### ◆ 道路巡回 ◆

1400万人の人口を有する東京都の主要道路、環状七号線を中心に簡易舗装修繕やガードレールなどの安全施設の点検、破損の報告、路上障害物や不法投棄物の回収などを行っています。首都圏の人々が安心して利用できる交通インフラ構築の一助となればと考えております。



保護柵破損による安全対策

作業前                      作業後



傷んだ道路の舗装

作業前                      作業後



路上障害物の除去

作業前                      作業後

#### ◆ 雪害対策 ◆

雪害対策で求められることは「迅速な対応とマンパワー」深夜から明け方まで雪かきをして、朝から動き出す社会と人々の暮らしを支えます。



国の目指す2050年カーボンニュートラル並びにSDGsおよび循環経済活動に寄与するため、多様な人材を育成するとともに、社会環境の変化に柔軟に対応するイノベティブ企業へ邁進します。

## 『道の駅』探訪記 Vol.17 道の駅



## 道の駅 すばしり

連日かつてないほどの暑い日が続いておりますが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。毎号ご愛読ありがとうございます。企画・広報部編集委員MOO（ムー）でございます。

今回の道の駅探訪では、“富士山に一番近い道の駅”と言われる「道の駅すばしり」。目の前に富士山を臨む絶景の道の駅でした！

そんな美しい姿の富士山ですが、一方で過去に何度も噴火を繰り返し各地に深刻な被害を与えてきた、今なお活動中の活火山でもあります。1707年の宝永噴火では、江戸の街に火山灰が2週間降り続いたと記されており、この噴火と同規模の噴火が起きた場合、除去が必要な火山灰は首都圏で最大約4.9億立方メートルに上ると算出されています。量にして東日本大震災（2011年）の災害廃棄物の約10倍だということですから想像を絶する量です。直近の宝永噴火から300年余り静穏を保っておりますが、歴史的に見ていつ噴火してもおかしくないことを理解し、各ご家庭で噴火時を想定した非常用備蓄や資材などの備えをしておくとともに、当協会会員各社におかれましても災害出動の準備や心構えが必要です。さて、前段が長くなりましたが…

## 「道の駅 すばしり」

「道の駅すばしり」は、東名高速道路と中央自動車道を繋ぐ東富士五湖道路の須走 IC を降りてすぐ、静岡県と山梨県の県境にあります。富士山登山の出发点のひとつ「富士山五合目 須走ルート」に至る「ふじあざみライン」に直結しておりますので須走ルート経験者は立ち寄ったことがあるかもしれませんね。

道の駅に到着しましたが、残念ながら富士山は雲に覆われていてその姿を拝むことはできませんでした。ガックリと肩を落とす私たちでしたが、露店の「富士宮焼きそば」を匂いに釣られペロリ、続いて2階にある食堂「みくりやそば」をまたペロリと平らげ、心（空腹）を落ち着かせます。心（空腹）が落ち着いたところで売店に入ります。富士山麓の新鮮野菜や地域の特産品が

並ぶ中、一角にひときわ目を引く迷彩グッズのコーナーが。近づいてみると自衛隊グッズのようです。なんでも、すぐ近くに陸上自衛隊富士学校・富士駐屯地があるそうで、それに因んで自衛隊グッズが置かれているそうです。道の駅で自衛隊グッズを販売しているのは珍しいですね。

外に出て駅内の施設を見渡してみると無料の足湯を発見。営業時間は11時から…う～ん、残念。再び肩を落としながらも駅構内の富士山の美味しい水（無料）を水筒に詰め、次の観光へと向かいます。



B級グルメ 富士宮やきそば



御殿場市のご当地料理 みくりやそば



自衛隊グッズコーナー

## 「キリンディスティラリー富士御殿場蒸留所」

過去にサントリーの蒸留所を訪れました（道の駅探訪記 Vol.12 参照）が、今回はキリンディスティラリー富士御殿場蒸留所の工場見学（要予約）へ行って参りました。

ウイスキーに馴染みがない方へ簡単にご説明しますと、ウイスキーの原料は大麦・小麦・トウモロコシその他の穀物を使用し、糖化→発酵→蒸留の工程を経て得られた原酒を木樽に入れて数年寝かせて造られます。原料に大麦のみを使用したものを「モルトウイスキー」、大麦以外の穀物を主原料したものを「グレーンウイスキー」、その2つをブレンドしたものが「ブレンデッドウイスキー」と呼ばれます。また、飲み方も「ストレート」「オンザロック」「トワイヌアップ」「水割り」「ハイボール（ソーダ水割り）」などがあり、飲み方によってウイスキーの風味の変化が楽しめることが特徴です。

工場では製造工程や厳格な品質管理の現場を係の方からの説明を聞きながら見学します。発酵・蒸留の過程の中で、職人の経験や五感によってチェックをする検査が何項目もあり、同品質でバラツキのない品質を確保するためには、機械だけではなく人間の力が欠かせないそうです。私たち酒好き三兄弟も食い入るように工場内を見学して回りました。

ついにお楽しみの試飲タイムです。工場見学で試飲したのは「グレーンウイスキー富士」と「ブレンデッドウイスキー陸」。飲み方は、「ストレート」でひと舐めし、少量の水を差しながら飲む「トワイヌアップ」、ソーダ水で割った「ハイボール」を味わいましたが、それぞれの風味の変化を確かに感じる事ができ貴重な体験となりました。普段、居酒屋で何のこだわりもなくグビグビとウイスキーを流し込んでいたことを猛省し、これからはもっと真剣にウイスキーと向き合い、その時々料理に合わせた飲み方や銘柄選びのできるカッコイイ大人を目指していこうと決意した三人であります。

前はサントリーの蒸留所、今回はキリンの蒸留所。…次はNIKKAの蒸留所に行きましょう♪そんな話に花が咲かせながら食事処へ向かいます。※飲酒運転撲滅を目指すキリンの工場見学ではハンドルキーパーの方にはソフトドリンクを提供しております。



## 「炭焼きレストラン さわやか」



皆さんご存じですか？静岡県内のみで34店舗展開する大・大・大人気ハンバーグレストランです。人気すぎてどの店舗でも長時間待つことが当たり前なんです！今回私たちは工場見学前にこちらの御殿場インター店で受付レシートを受け取り、工場見学後に伺いましたが、それでも40分待ちでした。腹ペコ三兄弟が注文したのは看板商品げんこつハンバーグランチ 250g 1,760円。ソースはオニオンソースとデミグラスソースから選べます。程なくして目の前に熱々の鉄板が到着し、テーブルに敷かれた紙を立ち上げ、壁を作り飛び散る油を紙でよけます。店員さんが調理開始。俵状のハンバーグを半分にカットし、レアな赤い肉の面を鉄板に強く押し付けながら肉汁ジュース



と焼き上げます。いかにもうまそうな音。まずこれが楽しい。一連の儀式がおわり、ハンバーグを口に。こ、これはおいしい。他店で似たような粗挽き牛肉 100%のハンバーグはあれど、味わたったことのない肉々しい食感と弾力。毎日行列ができるのも納得のおいしさです。こんなにもおいしいハンバーグがいつでも食べられるなんて静岡県民が羨ましい。

※ホームページにリアルタイムの待ち時間目安を表示してありますので、確認してから店舗へ行

かれることを強くお奨めします。(到着時(午後2時ごろ)、御殿場インター店での待ち時間は254分・117組待ちでした！)

…この後家路に着く計画となっておりましたが、どうしても足湯が諦めきれない満腹三兄弟は再び道の駅すばしりに向かいます。

道の駅に到着すると、なんということでしょう！先ほどまで雲に覆われていた富士山の雲は晴れ、その美しい姿を現しているではないですか！そして足湯は最高！「のんびりと足湯に浸かる」たったこれだけのことですが、“雄大な富士山を目の前に臨むロケーション”というスパイスが加わっただけで、この旅のメインイベントといっても過言ではないほど素晴らしく贅沢な時間となりました。MOO一同、日頃仕事や家庭で溜め込んだストレスが一気に吹き飛びました。

静岡県→山梨県への観光(富士五湖や富士急ハイランドなど)や、山梨県→静岡県への観光(御殿場アウトレットモールや沼津漁港など)の中継地点として、また、富士山登山の出発点としても便利な道の駅となっておりますので、お近くにお越しの際には立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



富士山登山には主に4つのルート(富士宮ルート・吉田ルート・須走ルート・御殿場ルート)があります。富士山登山を計画されている方はぜひそれぞれのコース難易度や休憩スポットをお調べになって無理のない登山計画を立ててくださいね！また山頂付近では夜になると真夏でも気温が5℃程度しかなく風が強い時はより体感温度が下がり寒さが増します。防寒対策は必須ですよ！

今回は、道の駅探訪記初の静岡県の道の駅へ行ってまいりました。皆さまのご旅行の参考になれば幸甚でございます。次号もまたご愛読よろしくお願ひします。

※記事は令和7年6月現在の情報です。直近の情報は各所ホームページにてご確認ください。

#### 編集後記

平成7年度は、熱中症対策が義務化され、南海トラフ地震や富士山噴火の可能性が高くなり、災害派遣要員の確保など、従来の業務への負荷が増えており、国土交通本省への陳情や各地方整備局との意見交換会を通して、道路清掃作業の改善に向けて活動していく重要な年です。

協会業務も引き続き積極的に活動していきますが、現場で作業されている皆様には、この夏は特に猛暑ですので、熱中症に注意して作業に従事して頂きたいです。